

食品の安全・安心リスクコミュニケーション（意見交換会）

～みんなで考えよう！『食品』と『農薬』～

当日、意見交換会前に「質問事項用紙」で提出いただいたご意見・ご質問とその回答については、以下のとおりです（一部、意見交換会で紹介できなかったものもあります）。

番号	質 問 事 項	回 答
	残留農薬検査は本県ではどのくらい行われているのでしょうか。	本県では、流通・販売段階での買上検査として、農産物を年間75件（150成分）実施しています。
	農薬の基準を守れば安全といえるのでしょうか。	基準さえ守れば絶対に大丈夫とは言えませんが、恐らく問題が起きるようなことは現状では想定されません。
	県内あるいは国内の農薬使用量はどのように変化しているのでしょうか。	「使用量」についてはデータがありませんが、「出荷量」ということで考えると、年々減少傾向にあります。この理由として生産面積の減少もありますが、生産農家が減化学農薬や化学肥料を減らすような取り組みを展開されてきたことによるものと思われます。
	家畜飼料の価格上昇に伴い、農家が大変な思いをしています。最近、「エコ・フィード」が広まっていますが、家畜飼料に登録がある農薬は少なく、野菜くずなどを餌としていいのか問題になることがあります。このあたりをゆるやかにしてもらえば、エコ・フィードも広まり循環型社会が築けるのではないのでしょうか。	食品産業における食品残さは、平成17年度で1,136万トン程度発生し、そのうち、21%が飼料として利用されていると推計されています。エコフィードの一層の推進のためには、飼料の安全性の確保が重要であり、「食品残さ等利用飼料における安全性確保のためのガイドライン」に基づき指導がなされている状況にあります。
	P C B を含まないダイオキシン類の危険性について、ラットほど人間にはそれほど有害ではないことがわかってきているという本を読んだが、実際のところどうなのか。	ボツリヌス菌のように、天然の毒物にはダイオキシン類よりも毒性が高いものもありますが、人工物質のなかではダイオキシン類は最も高いといわれています。ダイオキシン類の急性毒性は、動物による種差が大きいとされており、ダイオキシン類のなかで最も毒性が高いとされるものは発ガン性があるという評価がされています。また、動物実験では体内のホルモンと似たような働きをすることにより、甲状腺機能が低下するなどの報告がありますが、人に対しても同じような影響があるかどうかはまだよくわかっていません。
	農薬等の物質のリスクに関して、日本人は特に科学的な理解がされていないように思うので、このような機会を増やしてください。	

	遺伝子組替え食品やクローン牛肉について安全性はどうなのでしょう。	遺伝子組替え食品については、安全性評価基準に基づいて審査が行われ、安全性が科学的に確認されています。なお、詳細については厚生労働省のホームページに Q & A が掲載されていますので、そちらをご覧ください。 http://www.mhlw.go.jp/topics/identshi/qa/qa.html また、クローン牛の安全性については、農林水産省消費安全技術センターのホームページに Q&A が掲載されていますので、そちらをご覧ください。 http://www.famic.go.jp/public_relations_magazine/kouhoushi/question_and_answer_of_food/qa46.html
	飛散が原因で基準値を超えたケースは全国でどのくらいありますか。	ポジティブリスト制度施行以降、明らかにドリフトが原因となった例は、国内ではありません(H20.2.8 現在)。
	保健所では、加工所の点検は毎年おこなっているのでしょうか。	県で実施する食品営業施設への監視指導等について、毎年「食品衛生監視指導計画」を策定しています。この計画に基づき、農産加工所へも立ち入り調査を行い、必要に応じて衛生指導を実施しています。
	スーパーの商品はとてもきれいな食材が多いが、本当に有機農産物なのでしょうか。	「有機農産物」とは、 ・種まき又は植え付け前 2 年以上、禁止された農薬や化学肥料を使用していない田畑で栽培する ・栽培期間中も禁止された農薬、化学肥料は使用しない ・遺伝子組換え技術を使用しない 生産が行われていることを、登録認定機関が検査し、認定を受けた農産物をいいます。それ以外のものには「有機」「オーガニック」といった表示をすることが禁じられています。